

# 2013年度 第8回 社会デザイン学会 年次大会プログラム

## 統一テーマ：「3・11後のアート・文化と社会デザイン」

東日本大震災から2年半以上が経過したにもかかわらず、依然として本格的な「復興」への道は険しいままだというもどかしい状況が続いている。また、被災地における課題もますます重層化しつつある。そこで今回の学会大会では、これまでと少し視点を変え、そうした状況のもとで、アート・文化は社会との関わりで何ができたのか、またこれ

から何が期待されているのかを考えてみたい。そのことを通じて、3・11後の社会の新たな関係性のもとで、可能態としてのアート・文化が切り拓けるかもしれないコミュニティや社会のデザインを追究したいと考えるからである。2日間にわたるプログラムのなかで取り上げるテーマは、劇場法施行後

の地域の新しい「広場」としての公共ホールと社会デザイン、記憶・記録という観点からの文化資源と社会デザインなどである。幅広い人々による議論が今後の実践への契機となるよう運営していきたい。  
大会実行委員長 中村陽一

### 第1日目

2013年12月7日(土) (受付開始 12:45)

会場	立教大学池袋キャンパス マキムホール2階 M202教室
13:15 ~ 13:30	大会開会挨拶：北山晴一（社会デザイン学会会長）
13:30 ~ 16:15	シンポジウムⅠ 地域の「新しい広場」となるためには何が必要か —公共ホールと社会デザイン 【パネリスト】 衛紀生（可見市文化創造センター館長） 松井憲太郎（富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ館長） 吉本光宏（ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室長） 【コーディネーター】 片山正夫（セゾン文化財団常務理事、立教大学大学院教授）
16:15 ~ 16:30	総会
16:40 ~ 18:10	シンポジウムⅡ (21世紀社会デザイン研究科科目「社会デザイン学の可能性」とのジョイント) 【パネリスト】 梅原宏司（立教大学講師） 北山晴一（大阪樟蔭女子大学教授） 中村陽一（立教大学教授）
18:15 ~ 18:25	第1回社会デザイン賞発表
19:00 ~ 20:00	懇親会（山小屋）

### 第2日目

2013年12月8日(日) (受付開始 9:30)

午前の部	
会場	立教大学池袋キャンパス 7号館2階 7201~7205教室
10:00 ~ 12:30	自由論題発表（5セッション）
午後の部（参加無料）	
会場	立教大学池袋キャンパス 7号館1階 7101教室
13:30 ~ 14:30	学会研究会の紹介と報告（司会：齋藤哲男 学会常任理事）
14:30 ~ 17:45	公開講演会とパネル討論 開会挨拶：中村陽一（立教大学教授、社会デザイン研究所所長） Ⅰ 基調トークセッション 増田寛也（野村総合研究所顧問、前岩手県知事） 北山晴一（大阪樟蔭女子大学教授） Ⅱ 文化資源と社会デザイン—記憶を受け継ぎ未来をつくるために 基調講演：「現代社会における記憶・記録の重要性」 講師：鷲見洋一（慶應義塾大学名誉教授） パネル討論： 【パネリスト】板垣淑子（NHK報道局社会番組部おはよう日本チーフ・プロデューサー） 太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング主席研究員） 甲斐賢治（せんだいメディアテーク 企画・活動支援室室長） 【コーディネーター】曾田修司（跡見学園女子大学教授）
17:45	大会閉会挨拶：中村陽一（社会デザイン学会副会長、大会実行委員長）

●公開講演会への参加は無料

※第1日目、第2日目 総合司会 齋藤哲男（立教大学大学院教授）

### 【自由論題発表】 12月8日(日) 10:00~12:30 (受付開始9:30)

発表分野	企業活動&SR	社会・文化①	社会・文化②	環境・危機管理・震災	つながり・協働
会場	7号館2階 7201教室	7号館2階 7202教室	7号館2階 7203教室	7号館2階 7204教室	7号館2階 7205教室
司会	平田 賢典（学会理事）	澤野 次郎（学会理事）	イシカワ カズ（跡見学園女子大学）	田川 義博（情報セキュリティ大学院大学）	菊地 栄（学会常任理事）
コメンテーター	菊野 一雄（学会常任理事）	北山 晴一（大阪樟蔭女子大学）	曾田 修司（跡見学園女子大学）	笠原 清志（跡見学園女子大学）	中村 陽一（立教大学）
10:00 ~ 10:25	①「逆ピラミッド型」の拡張志向型のCSR概念に関する研究—CSR概念の変遷とイノベーション・ビジネスモデル分析の視点から— 倉持一（立教大学院生）	①多文化主義、多文化共生は失敗か—問われる日本の外国人政策— 金守香（立教大学院修了生）	①イスラム金融型マイクロファイナンス商品の設計について—日本におけるイスラム教徒フレンドリーな社会の構築に向けて— 八木正典（日本発の社会貢献ファンドレイジング研究会）	①被災地と首都圏の女性の交流による復興推進「結核プロジェクト」—交流・連携によるソーシャル・キャピタルの醸成、“緑需”の可能性— 大和田順子（認定特定非営利活動法人 女子教育奨励会）	①地方公共団体のパートナーシップについて—英国ヨーク市の事例をふまえて— 岩間初音（立教大学院修了生）
10:25 ~ 10:50	②米国ESOP企業のガバナンス構造—ボブズ・レッド・ミル社の事例から— 細川淳（立教大学院生）	②社会デザインにおける日独比較の試行—ドイツ移民理論の応用可能性の追求— 佐野敦子（立教大学院生）	②ロジステックスの側面からみたアーカイブスと豆本の取り扱いについて 川崎眞五郎（成城大学院生）	②ごみ処理システム改善のための地域通貨導入の試み— 上海市・崇明島を事例として— 袁博（早稲田大学院生）	②子どもと地域の乖離における「まちづくり教育」の可能性—「まちづくり」「教育」の両義性に着目して— 玉田洋（立教大学院生）
11:00 ~ 11:25	③日本型「IRツール支援会社」の今後の役割—発行体企業とどのような関係性を築いていくか— 斉藤肇（立教大学院生）	③ラウンドアバウト・モデル—自治と持続可能性に基づいた社会組織モデルを考える— ボレア・クリストフ・アレクサンドル（立教大学院生）	③エコミュージアムによる地域づくりに関する研究—サステナブルな新しい地域環境へ向けての考察— 井上和久（早稲田大学院生）	③地域性、日常性への視点—「安田町未認定患者の会」に対する支援活動 稲垣聖子（立教大学院生）	③学生の特徴を活かした地域活性化モデル—超高齢化したT団地の事例から— 石野由香里（法政大学多摩ボランティアセンター コーディネーター）
11:25 ~ 11:50	④日本ではなぜ消防職員の団結権が認められていないのか—国際労働機関（ILO）が提唱するディーセント・ワークの視点で検証する— 沼田元明（明治学院大学院生）	④通商産業省・経済産業省による文化政策について—文化庁・国際交流基金などとはどこが異なるか— 梅原宏司（立教大学講師）	④市民ファンドにおけるアライアンスの展開—市民ファンドの自立を目指して— 鈴木健一（認定NPO法人神奈川子ども未来ファンド）	④廃家電リサイクルにおける日中協力に関する研究—中国の大連市をモデルとして— 董子豪（早稲田大学院生）	④物語の行為と共同体デザイン—語り手と受け手の協働プロセス— 小澤真人（デジタル・ストーリーテリング研究所）
11:50 ~ 12:15	⑤働きのなかの幸福と職務満足の考察 高田靖子（立教大学院生）	⑤日本における円卓会議の波及プロセスについての考察 嘉瀬井恵子（立教大学院生）	⑤パブリックシアター、コミュニティシアター、そしてソーシャルシアター—ヘー久留米市総合都市プラザにおける取り組みから 高宮知数（立教大学院講師）	⑤クレーム行動経験別のパーソナリティ特性についての考察 田中泰恵（目白大学）	